

2006 年度

科目名 総合演習Ⅱ	対象学科・学年 教育教福 2 回生	担当者 三宅 奎介
授業テーマ 児童期・思春期の子どもの問題行動の実態を把握し、その指導方法を調査・研究する。		
授業の概要と目標 学校ではいじめ、非行、校内暴力など子どもの問題行動が依然として多い。さらに、不登校や学習意欲の欠如・減退などの問題も抱えている。本演習では子どもの内に隠されている心の葛藤や生活の実態を探究するための基礎として、多様な角度から児童期・思春期問題について調査・研究する。受講者は実践報告を分析したり、現場教師と話しあったりして学校の実態を把握し、問題解決のために各自がテーマを設定し、発表・討論しながら指導方法を研究する。これからは特に教師の力量が問われる。受講生自らが研究する姿勢を大事にしながら、演習をすすめる。		
評価方法 授業目的の到達度の判断として ①発表内容（50％）②討論への主体的参加および授業への姿勢（25％）③自己および相互評価（25％）を基準に総合的に決定する。		
テキスト なし	著者	出版社
参考書 適宜、参考書籍を紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 授業の内容と演習のすすめ方 教育改革の動き、中教審答申の理解（学校力、教師力、人間力） 2. 問題行動の実態とその背景 子どもの問題行動の捉え方、「生きる力」の育成。 3. 不登校や学習意欲の乏しい子の実態 子どもの権利の尊重、人間関係づくり、ワークショップ、 4. 児童期から思春期の子どもの心理 プライドと自信、自尊感情の育成、学級づくり 5. 子どもの未来に対する支援 進路指導、キャリア教育 6. 研究課題の設定 現在の学校教育の課題の上に立ち、研究課題を検討し、計画を作成する。 7. 課題解決の追求・研究① 実地調査・見学、調査資料・記録等を収集し、研究報告の作成をする。 8. 課題解決の追求・研究② 実地調査・見学、調査資料・記録等を収集し、研究報告の作成をする。 9. 課題解決の追求・研究③ 実地調査・見学、調査資料・記録等を収集し、研究報告の作成をする。 10. 課題解決の追求・研究④ 実地調査・見学、調査資料・記録等を収集し、研究報告の作成をする。 11. 研究報告会・評価会① 研究結果について口頭・パネル等で発表する。ならびに自己評価と相互評価をする。 12. 研究報告会・評価会② 研究結果について口頭・パネル等で発表する。ならびに自己評価と相互評価をする。 13. 研究報告会・評価会③ 研究結果について口頭・パネル等で発表する。ならびに自己評価と相互評価をする。 14. 研究報告会・評価会④ 研究結果について口頭・パネル等で発表する。ならびに自己評価と相互評価をする。 15. まとめと期末試験		